

がれき受け入れ

県独自の判断基準を

自民県連、知事に要望

自民党県連の水谷隆幹事

長ら県連三役は二十八日、
県庁で鈴木英敬知事と面会
し、東日本大震災で発生し
た岩手、宮城両県のがれき

の受け入れをめぐり、県内
市町との連携や、県独自の
判断基準の作成などを求め
る要望書を提出した。

要望書では、「岩手県で
約五十七万トン、宮城県で
約三百四十四万トンの災害
がれきの広域処理が求めら
れている」とし、①県、
市、町の三者が情報共有
し、スピード感を持って対

応する②県独自の安全性の
基準を定めるなど、市町が
受け入れの判断をしやすい
環境づくりを早急に行う③
政府に対して、広域処理促

進の計画作成や、放射性物
質の汚染の拡散への懸念の
払拭を求める一の三点を挙
げている。

鈴木知事は「今、市町と
しっかり協議している。安
全基準や処理基準、モニタ
リングや公表の方法のガイ
ドラインを作り、市町が判
断しやすい環境づくりをし
ている」と答えた。



鈴木知事（左）に要望書
を手渡す水谷幹事長（後
ろ右から2人目）ら＝県
庁で